

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 46 ※記入不要	提案機関名	湘南地域農業改良普及センター
要望問題 施設キュウリにおけるつる枯病等の病害対策の確立		
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 施設キュウリ栽培では、つる枯病、菌核病、灰色かび病など茎部に被害を及ぼす病害による被害が問題となっています。 農薬散布による予防や耕種的な防除対策はありますが、薬剤による治療的な防除法は確立していません。 キュウリの場合には作期も長く、予防的防除法の他に治療的防除法の確立も重要と考えられます。 キュウリでは、現在「トップジンMペースト」が治療的な塗布剤として登録されていますが、他剤の使用も含めた防除対策の確立が求められています。 JA湘南施設野菜部会 113名 2,258a		
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内	
研究対応区分	①研究所対応 ②委託研究 ③共同研究 ④その他	
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所(②根府川試験場 ③三浦試験場 ④津久井試験場) ⑤畜産研究所 ⑥水産総合研究所 (⑦内水面試験場 ⑧相模湾試験場) ⑨自然環境保全センター	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部 署	農業環境部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 新農薬実用化試験、農薬残留確認調査事業、中山間地域特産農作物等生産支援対策事業	
対応の内容等 つる・茎枯性病害の治療は薬剤による対策しか現在のところありません。農薬取締法の改正に伴い、使用方法が限定され、適用外使用が厳しく規制されたため、農家が手軽に実施できる薬剤の使用法の登録拡大を促進するよう上記課題の中で積極的に対応いたします。 しかし、農薬登録の拡大はメーカーの事情や薬剤の残留等により遅々として進まないことが予想されますので、現地における発生状況を調査して、予防的・耕種的防除対策等も含め対策を検討し対応します。	
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備考	